

(別紙)

【受賞理由】

●スタートアップ部門

<グランプリ>

ピクシーダストテクノロジーズ株式会社

Digitally Rebalanced.—世界をデジタル技術の観点から俯瞰し、再び新しい均衡点や平衡点を作り出すべく、現場のデジタルトランスフォーメーションや、物理世界のデジタル化、視聴触覚体験での新価値機軸の創造、デジタルと物理世界を繋ぐインターフェース領域の技術革新に努め、デジタル技術による新たな平衡点や均衡点を探し、変容する社会像や未来像を、共に探るパートナーとして我々はアカデミックから現場の問題解決まで、通貫して課題解決を提案できるプラットフォームを目指している。

受賞理由:

応募時点での特許出願件数は、スタートアップとして圧倒的な数字であり、また戦略的に出願がなされている。さらに同社の知的財産部門は「IP & Legal ファンクションチーム」として権利化実務だけでなく、契約実務もセットで対応することで契約から得た学びを権利化実務に還元し、先々の権利化の方針を契約にも反映させている。審査では、このような知財をてこにした大企業とのオープンイノベーションに積極的な取り組みや、特許とビジネスモデルとが直結していることから、評価観点の『知財戦略構築』についてとりわけ高く評価された。また、知財戦略構築のための体制作り(評価観点の『社内知財構築体制』)についてもとりわけ高く評価された。

<奨励賞>

株式会社バカン

IoT や AI を活用して、飲食店やトイレ、避難所などあらゆる空き情報を集め、提供する空き情報配信プラットフォーム「VACAN」の開発および運用を行う。

受賞理由:

知財戦略会議の実施、知財意識向上の取り組みなど、社内で知財を重視した経営を行っている点、及び資金調達や事業の成長のために、しっかりとした知財ポートフォリオ構築が目指されており、手本となる事例として選考委員から評価された。

Global Mobility Service 株式会社

自動車を所有できない世界の貧困/低所得層約 17 億人に向け、IoT 技術を活用した金融包摂型 FinTech サービスを提供する。

受賞理由:

海外で事業展開を進めるレイターステージのスタートアップとして、国内、グローバルともに早期の権利取得推進、知財を活用した資金調達やライセンスを用いた事業推進など、知財の具体的な活用が進められている点で評価された。

Telexistence 株式会社

遠隔操作・人工知能ロボットの開発及びそれらの技術を活用し、小売分野及び物流分野におけるロボット役務提供サービスを開発している。

受賞理由:

コアのソフトウェア技術は秘匿しつつも、2017 年の創業から約 4 年で 20 件を超える特許ポートフォリオを構築。明確な知財戦略を持った経営と、関係先企業と連携の取れた知財体制が評価された。

●知財専門家部門

<グランプリ>

柿沼 太一 (STORIA 法律事務所 弁護士)

スタートアップ法務及びデータ・AI 法務を専門とし、様々なジャンル(医療・製造業・プラットフォーム型等)の AI スタートアップを、顧問弁護士として多数サポートしている。AI の開発・利用・責任に関するセミナーを多数開催・登壇している。

受賞理由:

AI・データビジネスに関係するスタートアップを中心に、法規制やデータ利活用の面で多数の企業を広く支援した実績のほか、2018 年「経済産業省 AI・データ契約ガイドライン」検討委員をはじめ、研究開発型スタートアップと事業会社のオープンイノベーションを促進するためのツール「モデル契約書」策定へ深く関わっている。審査では、新たな技術・産業でのスタートアップへの知財も含めた普及啓発活動・支援がとりわけ高い評価を受けた。

<奨励賞>

佐藤 彰洋（あなたの知財部 代表取締役）

知財部や知財担当者のいないスタートアップに大企業と同等の企業知財の視点を提供する事業を展開。知的財産部員と弁理士という2つの知財専門家視点から、支援を実施している。

受賞理由：

企業知財部の持つ知見をスタートアップ企業に還元し、国内スタートアップの知財活動を底上げしようとする活動内容が評価された。

竹本 如洋（瑛彩知的財産事務所 代表弁理士）

弁理士として多彩なスタートアップへの積極的な支援を行うほか、事業を行う人全てに商標を出願してほしいという希望から、AI+RPA を用いて安価に商標出願できるサービス「すまるか」を開発・提供する事業も展開している。

受賞理由：

商標やブランディングも含めた、スタートアップからの相談を積極的に受けており、多くのスタートアップ支援の実績に加えて、「すまるか」における知財の普及・啓発活動が評価された。

●エコシステム部門

<奨励賞>

株式会社ゼロワンブースター

事業創造支援事業(アクセラレーター)として、起業家向けシェアオフィス、コーポレートアクセラレーター・社内起業家を発掘・教育するイントラプレナーアクセラレータープログラム企画運営、企業内起業人材研修、投資および資金調達支援、事業創造コンサルティング、M&A 仲介サポート等を展開している。

受賞理由：

オープンイノベーション促進という点で、社内起業家の育成プログラムで知財に関する教育を行っていることや主催アクセラレータープログラムでの知財セミナー・レクチャー・知財相談会の開催、大手企業知的財産部への事業創造教育プログラムの提供などの普及啓発が評価された。

Research Studio powered by SPARK

研究成果を元に事業を立ち上げるための、筑波大学による医療系スタートアップアクセラレーションプログラム。先進的な取り組みをしている海外大学機関と連携し、医療分野でのイノベーションエコシステムの構築を目指している。

受賞理由:

医療系のスタートアップの登竜門的な活動であり、その意義に加えてグローバル展開を踏まえたスタートアップ向け知財専門家によるメンタリングセッションなど、スタートアップコミュニティへの貢献が評価された。

【令和2年度選考委員会メンバー】(五十音順、敬称略) ◎は委員長

安高 史朗 IPTech 特許業務法人 代表弁理士・公認会計士

加藤 由紀子 SBI インベストメント 執行役員 CVC 事業部長

◎鮫島 正洋 弁護士法人内田・鮫島法律事務所 代表パートナー弁護士・弁理士

百合本 安彦 グローバル・ブレイン株式会社 代表取締役社長